

(電子メール施行)
農技 1259 号
令和4年6月10日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予報第2号を發表します。

令和4年度病虫害発生予報 第2号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(葉いもち)	平年並	少
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
ナシ(青ナシ)	黒斑病	平年並	やや少
	黒星病	やや少	少
	ハダニ類	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	やや少
野菜共通	シロイチモジヨトウ	平年並	やや少
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	平年並

* 気象の概況





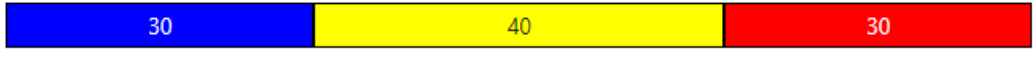
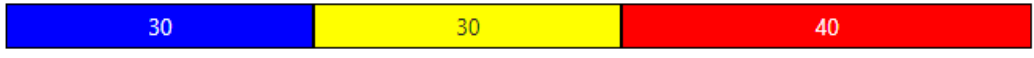
近畿地方 1か月予報

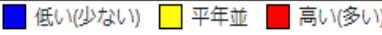
(6月11日から7月10日までの天候見通し)

令和4年6月9日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(06/11~07/10)		
2022年06月09日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	なし。	
向こう1か月 06/11~07/10	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目 06/11~06/17	気温	1週目は、低い確率50%です。
2週目 06/18~06/24	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3~4週目 06/25~07/08	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 06/11~07/10	
		1週目 06/11~06/17	
		2週目 06/18~06/24	
		3~4週目 06/25~07/08	
降水量	近畿地方	向こう1か月 06/11~07/10	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 06/11~07/10	

 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】（葉いもち）

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬時点で、本病の発生は確認されていない（県北部：本圃、県南部：苗いもち）。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高い、降水量は平年並と予想されているため、本病の発生が見られるようになると考えられる。

ウ 5月25日より梅雨明けまで、兵庫県病害虫防除所HPで、いもち病の感染好適条件の出現状況をBLASTAMとして提供しているので参考にすること（hyogo-nourinsuisangc.jp）。

2 【ヒメトビウンカ】（縞葉枯病）

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の場内ムギ圃場（加西市）におけるすくい取り調査では、幼虫が62.3頭/10回振り（平年値49.1頭）であった。現地圃場でも一部地域で発生が確認されている。

イ ムギ圃場における本種の生育は平年より早く進んでおり、飛び込み量が増えることから、本田ではやや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア ヒメトビウンカは、イネ縞葉枯病の伝染源となるため、本種の防除が重要となる。

イ 本田におけるイネ縞葉枯病の初期発病株（葉色が薄くなり巻いて垂れ下がるゆわい症状を現す）は、後期発病（出穂異常）の感染源となるので、速やかに抜き取る。

ウ 初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。

エ 前年秋の縞葉枯ウイルス保毒率は、病害虫防除所HP

（<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>）に掲載している。また、今年度の第一世代虫の保毒率結果は、6月上旬に掲載予定。

オ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）。

ナシ（青ナシ）

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の県北部での調査では、短果枝の発病葉率0.7%（平年値2.7%）、発生圃場率20.0%（同46.7%）とやや少ない発生が確認されている。
イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高い、降水量は平年並と予想されており、本病の発生に助長的であるため、平年並の発生になると考えられる。

2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の県北部での調査では、発生は確認されていない。
イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高い、降水量は平年並と予想されている。降雨の増加により、本病の発生が見られるようになると考えられる。

3 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の県北部での調査では、寄生葉率4.0%（平年値3.7%）、発生圃場率40.0%（同16.7%）と平年並の発生が確認されている。
イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、ハダニ類の増殖に好適な条件になることから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 早期発見に努め、多発前に防除を行う。
イ 下草雑草は、ハダニの発生源になりやすいため、こまめな草刈りを実施する。
ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)。

4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の県北部の調査では、寄生葉率1.0%（平年値6.1%）、発生圃場率20.0%（同35.7%）とやや少ない発生が確認されている。
イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、アブラムシ類の増殖に好適な条件になることから、平年並の発生になると考えられる。

野菜共通

1 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置しているフェロモントラップの5月1半旬～5半旬の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で0.0頭（平年値1.8頭）、南あわじ市（淡路農技内）で5.1頭（同6.8頭）、朝来市（北部農技内）で7.9頭（同3.9頭）とやや少ない誘殺が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されていることに加え、加害作物の作付が進むことで、平年並の発生になると考えられる。

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量： やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年（発生の多い年）に該当する。加西市（農技センター内）に設置しているフェロモントラップの4月～5月6半旬の合計誘殺数は、チャバネアオカメムシ614.0頭（表年の過去6年分平均値636.5頭）、ツヤアオカメムシ15.0頭（同31.9頭）の誘殺が確認されている。また、朝来市（北部農技内）に設置しているフェロモントラップの4月～5月5半旬の合計誘殺数でも、チャバネアオカメムシ172.8頭（表年の過去4年分平均値136.1頭）と表年における平年並の誘殺が確認されている。

ウ 県下3か所に設置している予察灯では、加西市（農技センター内）ではチャバネアオカメムシの4～5月5半旬までの合計誘殺数は7.0頭（表年の過去6年分平均値14.4頭）で、同時期の朝来市（北部農技内）では12.0頭（同4.1頭）の誘殺が確認されている。

エ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、カメムシ類の増殖に好適な条件になることから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること（<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyog>）。

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載
（<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>）

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」Twitterを開設しました！
発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。
Twitterアカウント(http://twitter.com/hyogo_boujoshu)

